

# 平成25年度アーカイブズ研修Ⅱについて

## 国立公文書館

国立公文書館では、平成26年1月21日（火）から1月23日（木）までの3日間、「平成25年度アーカイブズ研修Ⅱ」を開催しました。

本研修は、国又は地方公共団体の設置する公文書館等の職員及び地方公共団体の文書主管課等の職員を対象に、公文書等の保存及び利用に関する特定のテーマに係る共同研究を通じて、公文書館における実務上の問題点等の解決方策を習得させ、もって参加者の資質の向上を図ることを目的として、開催しているものです。研修前半に講義と事例報告を行い、後半にはそれを受けての討論が行われます。

25年度は、「歴史公文書等の利用に係る審査について（個人情報を中心に）」をテーマとして開催し、国の機関をはじめ、県、政令指定都市、市区町、独立行政法人等32機関から37名の参加がありました。

研修では、まず、日本大学法学部経営法学科の友岡史仁教授による「情報の公開・利用と個人情報保護—基本的考え方と最近の動向—」と、内閣府大臣官房公文書管理課職員による「特定歴史公文書等の利用と利用制限」の両講義を実施しました。続いて、国立公文書館、神奈川県立公文書館、茨城県立歴史館、京都府立総合資料館及び秋田県公文書館より、それぞれの館の歴史公文書等の利用に係る審査に係る基準、事例等についての報告が行われました。

グループ討論は、4班に分かれて行われました。その後、全体討論の場では、各班の討論の成果として、「歴史公文書等の利用に係る審査記録について」、「個人情報の公開の適否について」、「審査基準の現状・共通課題と展望」及び「審査・公

開業務の在り方と課題」と題して報告があり、さらに質疑応答や意見交換が行われました。

今号（第53号）では、研修でご講義いただいた日本大学の友岡教授による「情報公開および個人情報保護の基本的考え方」についての論考と、各班の代表者により報告された討論の内容・成果を掲載しています。

研修終了後に実施したアンケートでは、受講生から、「事例報告を通して各機関の実態や課題を、具体的に大変よく理解することができた。日頃の公文書館での業務に活かしていきたいと思う」「新しい国の動きを踏まえた研修であったことが、地方の文書館にとっても課題がわかり、大変よかった」「講義や事例報告、討論どれも内容が充実しており、大変勉強になった。各館での対応はそれぞれだが、共通の問題や悩みを見つけやすかった」といった意見が寄せられました。



講義風景